



# JAEA, KEK, 外国機関の利用ポリシー

高エネルギー加速器研究機構  
日本原子力研究開発機構

(発表者：永宮正治 (J-PARCセンター長))



# JAEAとKEKの施設利用等の仕組み

JAEA 施設共用	KEK 共同利用
<p>【原子力機構中期計画】            (施設・設備の外部利用の促進)</p> <p>○外部利用者から<b>適正な対価</b>を得て<b>広範な利用</b>に供するものとする。</p> <p>○民間や他の研究機関が保有することが困難な<b>原子力研究の基盤として重要な施設・設備は、施設共用</b>に供する。</p> <p>○外部からの利用ニーズが高い施設・設備については、<b>国の利用促進プログラム等</b>を活用しつつ<b>利用支援体制を整備</b>し、利用者に対して十分な支援を行い、<b>利用の拡大</b>に努める。</p> <p>○共用に当たっては、利用者の立場に立って、<b>企業秘密の保持</b>や機動性、弾力性を確保するとともに<b>透明性・公平性</b>を確保する。</p> <p>○利用時間の配分の決定に際しては、<b>外部利用者が内部利用者より不利な立場に置かれることのないよう</b>、また、<b>産業利用が配分の決定において不利な取扱いを受けることのないよう</b>配慮する。</p>	<p>【高エネ機構中期計画】</p> <p>○我が国の加速器科学の総合的発展の拠点として、また、<b>国内外の関連分野の研究者</b>に対して<b>研究の場を提供</b>する大学共同利用機関法人としての役割を果たす。</p> <p>○実験的・理論的研究を行う共同利用の場を<b>国内外の大学</b>をはじめとして、<b>研究機関、民間企業を含む研究者</b>に広く提供する。そのために、既存施設・設備の<b>運転・維持</b>及び共同利用実験遂行に必要な<b>技術支援</b>を行うとともに、加速器施設等の<b>性能向上</b>に取り組む。</p> <p>○各共同利用実験の課題採択は、研究所の運営会議の下に設置される<b>課題採択委員会において審査</b>する。</p> <p>○共同利用研究者に対する<b>受入体制を整備</b>し、共同利用宿泊施設や福利厚生施設の利用などの<b>支援、便宜供与等</b>を充実する。</p> <p>【高エネ機構業務方法書】</p> <p>○共同利用の実施において、研究施設及び研究設備等の使用料は、<b>無償</b>を原則とする。</p>

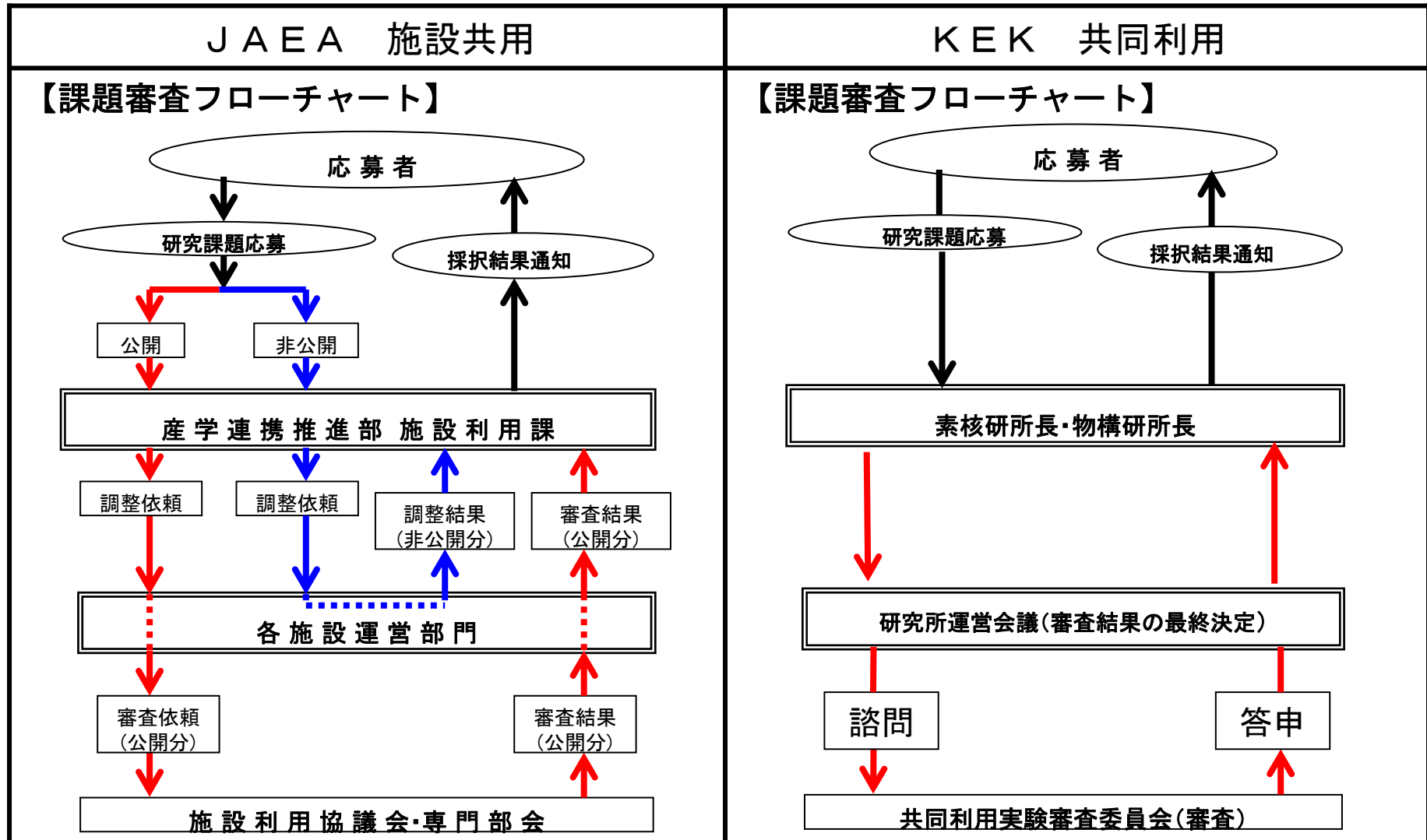
※利用の形態と料金については参考資料1を参照

※課題審査フローチャートについては参考資料2を参照

# 施設利用等の形態と料金

JAEA 施設共用					KEK 共同利用等							
<b>【施設共用の形態と料金】</b>					<b>【共同利用の形態】</b>							
課題募集	利用形態		課題審査	成果	料金		区分	課題募集	利用形態	課題審査	成果	料金
定期募集 (年2回)	研究 開発 目的 的 利用	成果公開	有	公開	施設運転経費 減免		陽子加速器	随時受付	共同利用実験	有	公開	無償
		優先枠(大学 共同利用他)	無	/	通常料金		Bファクト リー	-	共同利用実験	有	公開	無償
		成果非公開	無	非公開			放射光科学 研究施設	定期募集 (年2回)	共同利用実験	有	公開	無償
随時受付	研究 開発 目的 的 利用	成果公開	有	公開	施設運転経費 減免		放射光科学 研究施設	随時受付 (U型課題)	共同利用実験	有	公開	無償
		成果非公開	無	非公開	施設運転経費 割増(150%)		中性子科学 研究施設	定期募集 (年2回)	共同利用実験	有	公開	無償
		研究開発目的以外 の利用	無	/	特別料金 減価償却費増		ミュオン科 学研究施設	定期募集 (年2回)	共同利用実験	有	公開	無償
通常料金＝取扱手数料(10,300円/件)＋施設運転経費＋追加経費					<b>【施設利用の形態と料金】</b>							
対象施設 (17施設) :					募集							
東海地区 : JRR-3、JRR-4、燃料試験施設、タンデム加速器、放射線標準施設					利用形態							
大洗地区 : JMTR、常陽					課題審査							
高崎地区 : イオン照射研究施設(4施設)、1号加速器、コバルト60照射装置					成果							
関西地区 : SPring-8、光量子科学研究施設					料金							
東濃地区 : ペレット年代測定装置					(通常ライン) 27,300円/時間							
むつ地区 : タンデトロン施設					(高性能ライン) 53,550円/時間							
					対象施設 : 放射光科学研究施設							

# 課題審査フローチャート





# IUPAP (International Union of Pure and Applied Physics) 提言

- ① 実験の選定と順位付けは受け入れ施設の責任において決定される。
- ② 実験の選定基準
  - a) 科学的意義(優位性)
  - b) 技術的妥当性
  - c) 実験グループの能力
  - d) 必要とするリソースの利用可能性
- ③ 実験を行うチームの機関、地域、国を差別して選定してはならない。
- ④ 採択された実験課題の実施に際し、受け入れ施設は、その施設がルーチン的に提供する措置以外に追加的な措置はしない。

例外とする場合、実験チームと施設側で各々の寄与について採択前に責任者間で合意を得る。
- ⑤ 受け入れ施設は、施設側で維持管理される実験エリアの運転コスト、設備を含む施設の運転コストを、実験グループから徴収しない。

## この勧告に対する例外(特別事情) : 成果専有の研究

- 特別事情を、人為的に利用を制限したり、参加を除外する理由としてはならない。
- ユーザー施設に特別事情が存在しても、科学的なグループによる利用のための通常の手続きと条件を逸脱することに対して、施設はその理由を公表しておくべきである。
- いかなる場合においても、発展途上国のニーズには特別な配慮をすべきである。



# CERNなど高エネルギー施設の利用ポリシー

- ICFA (International Committee for Future Accelerator) [= IUPAP下部機関である Working Group] ガイドラインとしてまとめられている。
  - 実験の採択及び優先順位は、運営する研究所側の責任において決定。
    - 上記の決定基準は、学術的価値、技術的実行可能性、実験グループの能力、必要な財源の入手、とする。
    - 上記の決定は、グループの国籍や所属機関などによって影響されるべきでない。
    - 実験に必要な財源の入手については、実験の採択審査の際に調べられる。実験に必要な経費の出費については、研究所とグループリーダーの間で取り決める。
  - 研究所側は、実験グループに対して加速器や実験装置の運転経費を要求しない。
  - 研究所が、他地域からの実験グループの参加が多すぎると判断した場合は、その参加を制限できる。



基本的には IUPAP ガイドラインと同じ



# SNS: User Program に対する指針

- **ガイドライン:** IUPAPの提言に従い、利用者が最高のサイエンスを行えるよう支援する。(User Facility が根本の考え方)
  - 中性子の安定供給のための中性子源維持・高性能化
  - 最新鋭実験装置の維持・高性能化
  - 熟練した職員による施設、実験装置の維持・高性能化と利用者に対する支援
- **ビームライン:** 第三者の設置するビームラインも含め、SNSですべて運転維持管理を行う。
- **一般利用と所有者利用:** すべてのビームラインに対し、一般利用枠75%、所有者利用枠20%以内、施設枠5%程度。
- **ビーム料金:** 成果公開研究は IUPAP 指針に従い無償。成果非公開研究は有償。
- **審査、諮問委員会等**
  - Scientific Advisory Board (SAB)  
SNS 施設長に対して、進めるべきサイエンス、研究成果の質・量等の最適化についての指針を提言。
  - Users' Executive Committee (UEC)  
施設運営に対して利用者の意見を提言することを目的とする利用者からなる委員会。
  - Proposal Review Committees (PRCs)  
研究課題審査委員会。主に外部の委員からなる。



# ISIS: User Program に対する指針

- **ガイドライン:** CCLRC(Council for the Central Laboratory of the Research Councils) の大型施設群(ISIS、SRS、CLF)において、世界をリードするサイエンスを遂行するための利用体制の構築。
- **ビームライン:** 英国内のビームラインは、英国における科研費製作でも、すべてISISに帰属。国外において製作されたビームラインは、当該国の所有。
- **一般利用と所有者利用:** すべて一般利用に供し、所有者枠はない。ただし、5%以下程度のDirector枠。
- **ビーム料金:** 国内利用者には、成果公開研究に対しては無償（以前、一時有償の時期もあったが、成果が急落したため無償に戻した）。国外利用者に対しては原則有償（IUPAPガイドラインには従っていない）だが、例外措置あり。
- **審査、諮問委員会等**
  - Scientific Advisory Committee  
ISIS 施設長に対して、進めるべきサイエンス、研究成果の質・量等の最適化についての指針を提言する。
  - ISIS Users' Committee  
施設運営に対して利用者の意見を提言することを目的とする利用者からなる委員会。
  - Facility Access Panel (FAP)  
研究課題審査委員会。主に外部の委員からなる。